

平成26年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3ヶ月に1回)実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成26年2月(次回調査は平成26年5月を予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近3ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 85.0%(130名/153名) <前回 82.4%(平成25年11月)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	89	68.5%
女性	41	31.5%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	41	31.5%
沿岸南部	89	68.5%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	26	20.0%
40歳台	31	23.8%
50歳台	46	35.4%
60歳以上	27	20.8%

④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	73	56.2%
被害なし	53	40.8%
不明	4	3.1%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)
51名(39.2%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)
38名(29.2%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者)
41名(31.5%)

■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ この調査は、調査結果の集計、分析について、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が4.7%と前回(4.8%)を若干下回ったが、「回復した」「やや回復した」の合計は55.9%と、前回の合計(48.0%)を7.9ポイント上回った。

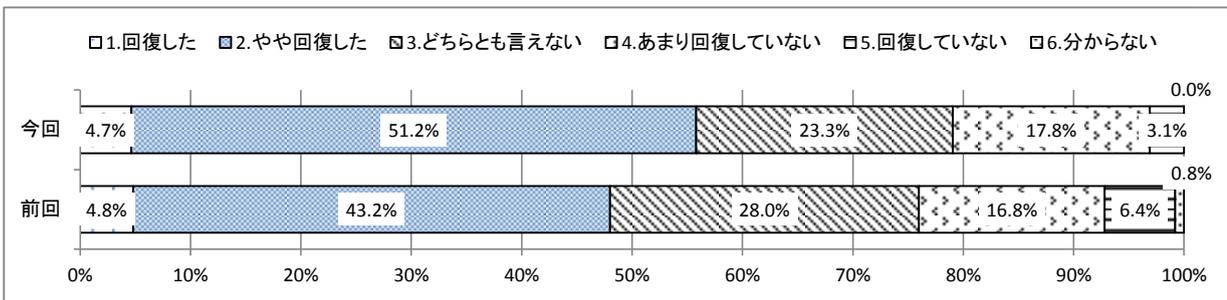
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった(沿岸北部68.3%、沿岸南部43.2%)。沿岸北部では「回復した」「やや回復した」の合計が78.1%と前回(54.7%)を23.4ポイント上回り、沿岸南部の「回復した」「やや回復した」の合計は、45.5%と前回(44.6%)を0.9ポイント上回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」の割合が41.4%と最も高く、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が49.2%と前回(44.4%)を4.8ポイント上回った。

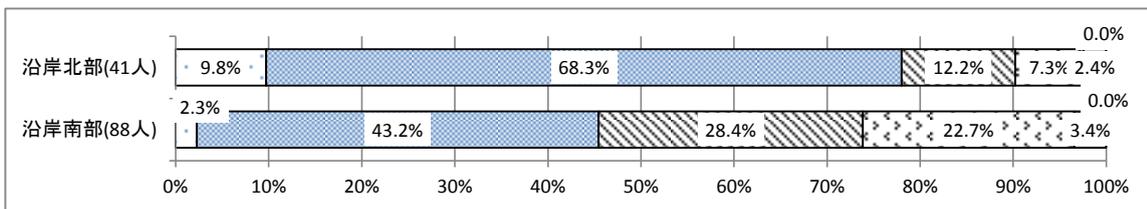
新築住宅や公営住宅への転居が増えた、といった前向きな声がある一方、精神的な疲弊などを訴える回答もあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

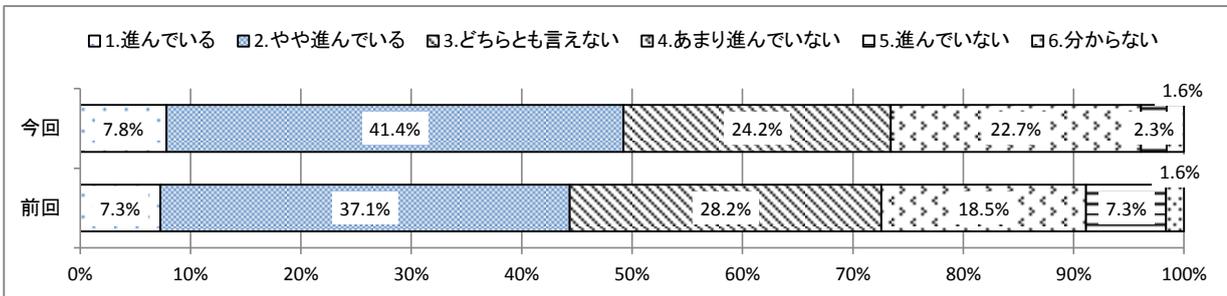


地域別

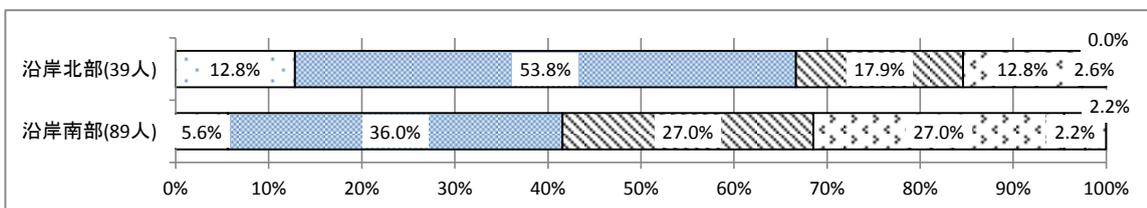


② 直近3ヶ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<p>◆私が見て知る範囲では、回復したものと判断される。被災されて家屋を失った方々は、新設の町営住宅へ入居し、すべて元通りとはいかないものの、平静な暮らし振りが伺える。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<p>◆金融機関に勤務しているが、住宅新築に伴うローン申し込みは確実に増加しており、被災者の再建は確実に進んでいる。土地の確保さえできれば、住環境の整備はさらに進展する。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆災害公営住宅も3ヵ所が完成し、入居済みである。自宅の建築も進んできているのが目につく様になった。土地の価格も震災前に戻りつつあると思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆災害公営住宅も完成し仮設住宅からの引っ越しも多くみられる。高台団地の整備も進み、自主再建の人達も住宅再建に向けて活動しはじめた。ただ、仮設住宅に残された人達はさびしさが増すばかりの様子。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆最近になってやっと仮設住宅からの転居者が増えてきた。公営住宅や土地を手放すことへの抵抗感が薄らいだことが理由だろう。日常生活を送るための物品等にも困ることはない。しかし、文化面の回復には程遠い。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆人口の流出はあるのかもしれないが、インフラ整備は終わり、仕事による雇用の進展のみとなった気がする。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆高台の整地作業も目に見えるようになってきました。待ち望んでいる人達も希望が持てるようになってきたと思います。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆仮設住宅はいぜんとして解消されないが、その中でも仕事が安定し、一つのコミュニティが形成されるなど回復したと感じられる面もある。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆復興住宅への入居が始まり、落ち着いた環境での生活がスタートした方々がいるため。空き部屋の活用(入居促進や入居対象)対策は必要と感じています。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆住環境という面で、当地域は昔から戸建住宅に住むという生活を続けており、他の地域に比べ集合住宅やアパート等に対し抵抗が強く、災害公営住宅(集合住宅)の建設も難儀したという話も聞いている。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆住宅を自力で新築する人もいますが、今後の国などの動きを待ってから動こうとする「様子見」をしている感じを受けます。震災直後のように物事を次々とやっていたというのではなく、少し停滞しているように思います。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆自宅再建をされ生活された方も増えてきた。一方、うつ病を発症される方や施設に入所となる方もいる。老人世帯にしわ寄せがきている。介護保険料の自己負担がなく助かるとのお話があった。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆多くの求人があるが、あまり応募者はないようだ。雇用のミスマッチがあるようで、飲食関係、土木関係、介護関係と、いつも求人の一覧の業種は同じような業種。少し年齢の高い方がすぐに就ける職も少ない。(30歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆震災から3年が過ぎ高齢化が進み、生活に活気が感じられなくなってきたように思える(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆高台移転の工事が全く進められていない。最低でも仮設住宅には2年は住んでくれと行政に言われているようだ。最近では、他の地区へ家を建てる人が出ている。津波で残った家だけが孤立して不安。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆やはり仮設住いは不便だけではなく精神的にも疲弊している方が少なくない。将来の希望がもてないからか生活面で張り合いを感じていない方も少なくない。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆毎日の生活に追われ、先の事もゆっくり考えられず、ただ毎日の生活をこなしていくという状況が続く、心に空しさを感じる。震災後、約三年が経ち、周りの人達の態度にも3年前よりも距離を感じるが増えてきた。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 急急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が46.9%と前回(48.8%)を1.9ポイント下回った。

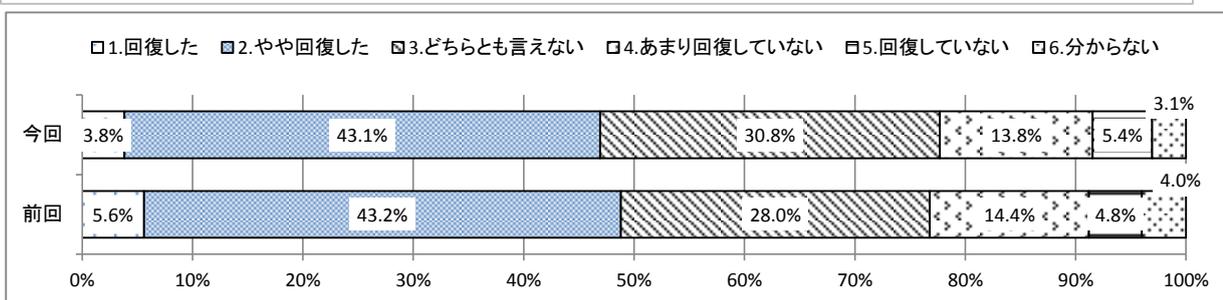
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計が、沿岸北部では56.1%と前回(47.6%)を8.5ポイント上回ったが、沿岸南部では42.6%と前回(49.4%)を6.8ポイント下回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」の割合が38.5%と最も高く、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が43.9%と前回(37.9%)を6.0ポイント上回った。

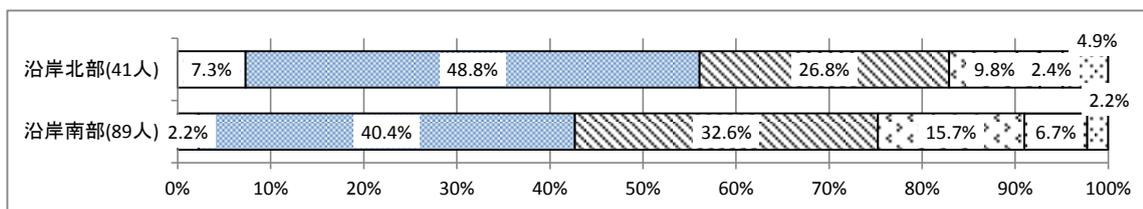
大型店進出による雇用・消費拡大への期待や漁業の好況を前向きに評価する声がある一方、地元商店街等の先行きを不安視する声もあった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

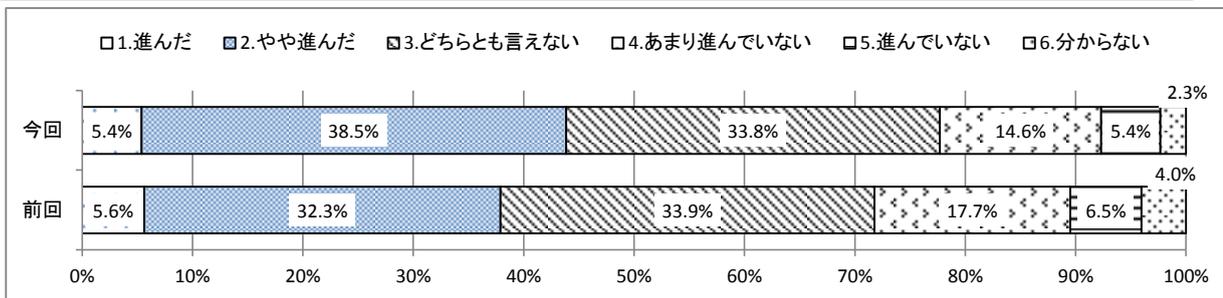


地域別

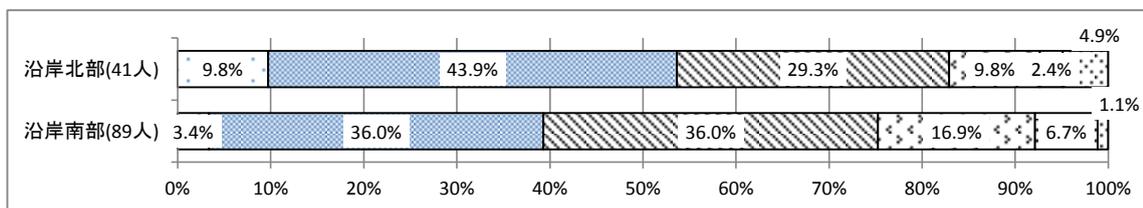


② 直近3ヶ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆復興特需により活気があるが、未来の発展性はない。被災前より過剰に設備をした分、景気は一気に落ち込むと思う。事業復興型雇用創出助成金の事務手続きが遅々として進まず、もったいないことになっている。(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆水産業の支援体制(水産庁)は手厚く、再建はかなり進んでいる。逆に整備完成後の販路確保に懸念がある。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆水産物の流通形態が、震災前とかなり変化しており、震災以前のような物流ができなくなって来た。福島原発事故による風評被害によるものや、2年間三陸産の水産物が出荷されないための、仲介人や市場の顧客等のシフトや変化等が考えられる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆ワカメ、ホタテガイ養殖が復旧し、今季から待望の養殖カキの出荷が始まった。昨年、悲願の町内2箇所の魚市場の復興が成り、浅海養殖生産処理共同施設が建設されてきた。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆近くに大型スーパーが出来てから家がたくさん建って来ているので、町の人口の流出を取り戻すきっかけとなり、今後の経済の回復に期待する。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆やっと目に見える形で大型スーパーや店が建ってきた。「行ってみよう」「あの店で買ってみよう」と購買意欲が高まってきている。鮭がまた戻ってくるようになったことや養殖産業が復活してきたことを感じる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆ホテルや大型店が新設された。被災した飲食店なども再開してきている。水産業には活気が感じられる。ワカメやコンブなど海産物に磯の香りをを感じる。三陸鉄道の全線開通を楽しみにしている。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆水産業の方もだいぶ回復しているのか、求人が出ているのを目にした。人が足りないくらい忙しくなっているのかと感じた。母も漁業関係で働いているが、忙しそうにしている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆人口の流出、住宅から店舗までの足がない、若い人達は町外に買い物に行く。毎日の買い物は、スーパーに行き食品を買うだけです。仮設店舗の通りは人通りもなく大変です。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆両親が自営業で自宅と工場、事務所のすべてを失った。機械やトラック等を買って揃えるのには億単位の資金が必要で、借金するにも今後の見通しが立たない。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆地元企業が働き手の募集をかけても集まってこない。どの業界でもこの問題が大きくなっている。復興の為に他県からの応援企業に就職する方々もいる。どこか歯車が噛みあってない気がする。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆他地域での復興事業が本格化したことでより生活向上がみられる地域への流出が顕著になってきた感じがする。ウニ・わかめ等の水産業関係は以前より回復の度合いが早くなったように感じられる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆観光業、商店街は苦戦しているようだ。宿泊客は主にビジネスマン、復興関係の作業員、出張者で、仮設宿泊所を会社で建てたりしている。仮設商店街のお客様が、以前に比べてずいぶん減っているのも心配だ。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆魚価は上がらない。水産加工場は労働がきつい割には賃金が安い。働き手は町から出て行く。働く所と賃金問題で外で結婚して子供が出来ればそこに住み付いて戻れない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆生産体制は、海上施設が進んでいるが、陸上施設、船着き場が少ない。漁協の金融体制が生きていないので、組合員の生産者が資金等で苦勞している。資材、燃料が高く、魚価は安く、漁に出られない状況である。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆一次産業基盤の復旧は途上で、土地区画整理の造成との整合の為、水利の変更等もとれない、高台の農地等も管理作業にしわ寄せが来る。「所得に結びつかない作業量が多くて困る。」と言う話を良く聞く。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆新年を迎えての情報。初売りに町民があまり集まらない。他市町村の大型店に買い物に出かけることが多くなっているとのことである。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりについては、「達成した」「やや達成した」の合計が19.6%と前回(13.7%)を5.9ポイント上回り、「達成していない」「あまり達成していない」の合計は45.3%と前回(48.4%)を3.1ポイント下回った。

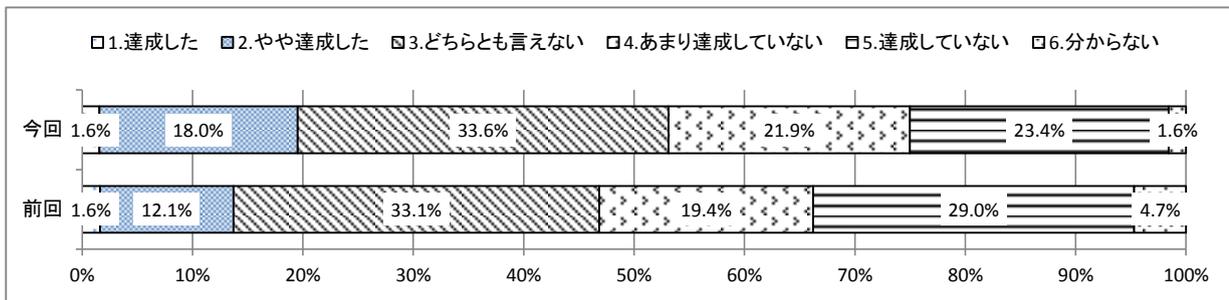
○地域別では、沿岸北部は「やや達成した」が37.5%(前回は26.8%)と最も高く、沿岸南部は「どちらとも言えない」が34.1%(前回は32.5%)と最も高くなっている。

○直近3ヶ月の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が30.2%と前回(29.0%)を1.2ポイント上回り、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は39.6%と前回(42.2%)を2.6ポイント下回った。

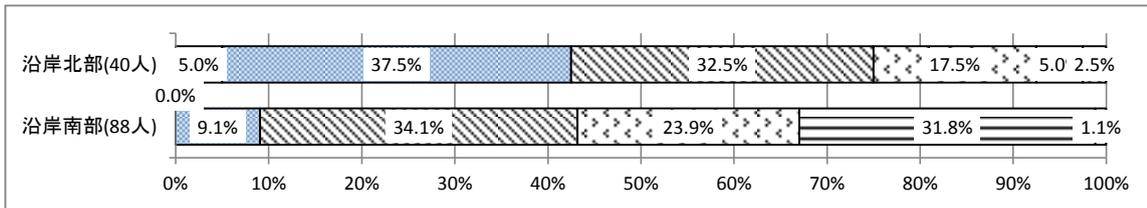
防潮堤等の復興工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、交通渋滞への懸念や安全なまちづくりに住民の声が反映されていないことなどへの不満を訴える声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

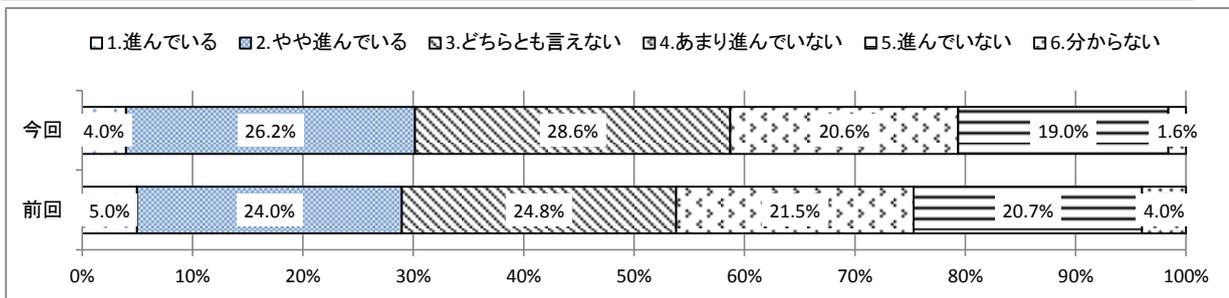


地域別

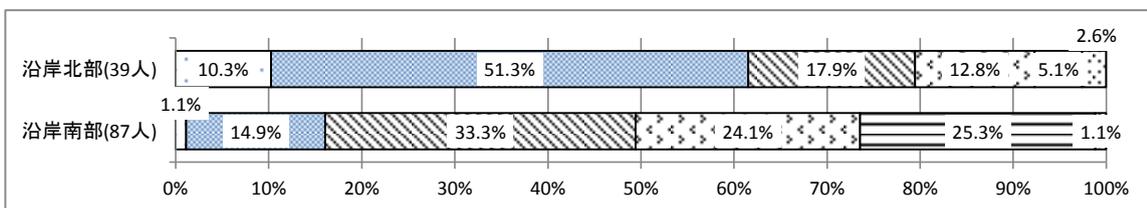


② 直近3ヶ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆景観等の問題はあるが、防潮堤の工事も進み、安全な町づくり形成に向けて、力強い足音が感じられる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆避難所の施設は完成したが、そこへ行く橋、道路整備が遅れているので、何かあった場合に孤立する!!(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆防潮堤の整備は目に見える形で進んでいる。また、震災を経験した住民個人が、安全に対する意識が高いので、話し合いの場でも積極的に討論されたりしている。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆港の復旧工事はかなり進んでいる。これからは防潮堤と水門の工事だ。こちらは早く進んで欲しい。復興道路建設も進んでいて、地域の皆さんも喜んでいる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆漁港周辺は海岸道路嵩上げ工事が進み、水産加工施設の建設も見られ、魚市場も充実してきた。周辺の環境復旧・復興工事が施工進行中ではあるが、命の安心安全や財産を守るための防災施設が、遅々として進まない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆ガレキ処理も終わり、表面的には進んでいる様に見えるが、防潮堤整備の為に用地取得は足踏状態。中心市街地はJR鉄道を境に防災集団移転地域と区画整理に分別されており、JR山田線の復興・復旧に左右される。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆市内どこを見ても、ダンプ、トラック、その他重機が行き交っている。交通事情の整備など考えてほしいと思う。交通渋滞など、さけられるようにしてもらいたい。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆防潮堤を作れば安全か?と感じる。十年後、二十年後の事を考えた町づくりを考えてほしい。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆冬季間に長年交通渋滞となり、通勤・通学・物流等の多くに障害を与えていた国道45号の最後の難所と言われた峠が、この3月にトンネル開通となることは、命を繋ぐ安全なまちづくりにはとても大切な意味を持つ。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆地震が頻発しているので、又津波が来るのではないかと。何より大切なのはいち早く避難することであるが、R45沿いには海岸線にも関わらず避難誘導の標識がなく、夜間などは特に不安である。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆防潮堤は、県が示してる高さで決定しているが、地権者の相続や国道の移動、地盤改良、もり土の確保等のため予定より遅れていると聞きますが、早急に着工できると達成感を得られると思います。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆避難時に必要な道路は舗装が必要だと感じる所が多数あるが、ずっとそのまま。反面、避難路ではなく、路面がそれほど悪くない、人通りもほとんどないような道路を全面的に再舗装しているのには疑問を感じる。避難道路を優先的に総点検してほしいと思う。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆住民全体の防災訓練を行っていないので、一度避難訓練的なものを実施するべきだと思う。工事車両が日中、街中を走り回っているが、また大きな地震が起こったときに渋滞を起こしてしまうのではないかと不安になる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤高の計画には住民の合意形成がほとんどされておらず、住民説明会の参加者はごく一部の町民で、堤防高について2つの案を示し、どちらにしますかというやり方に問題ありと感じている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆高田町は高田松原と、50年前に作った防潮堤が時間を稼いだと思ってます。防潮堤は必要です。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆国や自治体、工事業者の方のがんばりはわかりますが、遅々として進んでいないように思います。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆防災無線がはっきり聞こえない地域が多数ある。避難場所を案内する市内各地の看板も、ダンプが多数走っているため道路が泥だらけで、土ぼこりで見えなくなっている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

平成26年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告
(平成26年3月)

発行

平成26年3月28日
岩手県 復興局 総務企画課

〒020-8570
岩手県盛岡市内丸10-1
電話(019)-629-6945
ホームページ：岩手県震災復興
<http://www.pref.iwate.jp/shinsaifukko/>